

# 京都の魅力を発掘し、持続可能な体験型観光商品を作成・実施

## 1 目的・概要

“オーバーツーリズム” ——。これはコロナ以前から、京都の観光地が抱える課題の一つです。京都には国内外から多くの観光客が訪れていたために、騒音やポイ捨て、交通渋滞などが目立ち、景観や地元住民、雇用の面で不安要素となっていました。さらに、コロナ禍でのインバウンドの減少で、より「持続可能な観光」の重要性が増しました。

本プロジェクトは、そのような「持続可能な観光」を提案する観光商品を作ると同時に、私たちと観光客が、京都の魅力を発掘していくことがねらいです。

はじめに、「持続可能な観光」を観光客、観光地、地元住民の三方に恩恵があり、数十年後も続く資産であると定義付けました。また、京都では“オーバーツーリズム”の解消が持続可能な観光を実現するに相応しいと考えました。そして、科目担当の方、観光業界で活動するゲストの方の講義やオンラインツアーの参加等を通じ、京都観光の現状やツアー作りのプロセスを学びました。

その後、クラス内でガイド・添乗員・企画制作・営業広報の役割に分かれ、ロケハンによる写真・動画撮影、インタビュー、外国人とのオンライン交流会、アンケート実施によるヒアリングを通しオンラインツアーを作成しました。

春学期に全2回、秋学期に全3回実施したオンラインツアーで持続可能な観光ツアーの一例を提案することで、実際のツアー参加者が京都を訪れる際の参考となるツアーを目指しました。



### Annual Schedule

2021年	4月	本プロジェクトや観光業についてのガイダンス・座学 / オンラインツアー参加
	5月	ツアーのテーマ・ゴール設定 / ゲストスピーカー講演 / ロケハン / 模擬ツアー作成
	6月	外国人とのオンライン交流会 / 模擬ツアー作成・リハーサル
	7月	模擬ツアー実施 / 模擬ツアーフィードバック / 春学期成果報告会及び準備
	9月	秋学期・ツアーテーマ・ゴール設定
	10月	ツアー作成 / ロケハン
	11月	ツアー作成 / ロケハン / 本番ツアー実施① / 本番ツアーフィードバック
	12月	ツアー作成 / 本番ツアー実施②③ / 本番ツアーフィードバック
2022年	1月	秋学期成果報告会及び準備

## 2 成果達成度

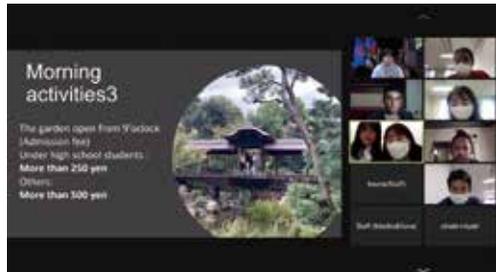
「Make our mind “MITSU” -Japanese students teach!- Secret Kyoto Cultural Experience Tour」

春学期には、秋学期に実施する外国人向けツアーの前段階としての模擬ツアーをAチーム、Bチームに分かれて作成・実施しました。秋学期では、コンセプト・目的の一貫性をより図るためにチームを一つに再編し、「持続可能な観光」の目標を再定義すると同時に、大学生らしさにある既存に捉われない新しいツアー作りを試みました。



ツアー名にある“MITSU”は“密”を意味しています。

本ツアーがオーバーツーリズムという京都観光の課題解決の一助となるために、時間・交通・場所の混雑を避けて「密を作らない」ということ、また、コロナ禍で気軽に会えない家族や友人と、あるいはツアーガイドと参加者がオンライン上で会って「密になる」ことを提案しました。



ツアー内では、「密を作らない」ための提案として、①有名観光地での密集を避けるニッチな観光地②公共交通機関の混雑を緩和する、サイクリングによる観光地間の移動手段③同時間帯、同コースでの観光を避ける朝活のできる観光地、以上の3点を紹介しました。また、クイズの出題やチャット機能、ブレイクアウトルームの活用により双方向性を生み出すことで、「密を作る」ことをねらいました。さらに、体験型として茶道や足湯の紹介動画の挿入によって、参加者に飽きさせない工夫をしました。

主にInstagramやFacebook上でイベント告知、紹介動画を投稿して集客力を向上させ、総フォロワー100名超えを達成しました。また、ツアーの実施時間帯に関しては、世界各国から参加できるよう、時差を考慮し複数の時間帯を設けました。

全3回のツアーでは主な内容・流れを変えずに、ツアー後の反省を踏まえた改善を加えていく形をとりました。ツアー当日は全10人のメンバーが各々役割につき、3人のガイドによる英語でのツアーを実施しました。

(第1回目ツアー)

日時：2021年11月18日(木) 午前11時～12時15分

参加者：4名

(第2回目ツアー)

日時：2021年12月2日(木) 午後8時～9時15分

参加者：10名

(第3回目ツアー)

日時：2021年12月19日(日) 午前11時～12時15分

参加者：6名



ツアー後のアンケートでは、「京都に行きたくなった」「クイズが楽しかった」という回答が半数を上回り、京都の魅力の発信ができたうえ、双方向性を実現し「密を作る」ことができました。また、サイクリングや朝活への興味を示す方もいたことから、ツアーが持続可能な観光を考えるきっかけの場になったと考えます。

## 3 プロジェクトを通じて

1年間の活動を通して学んだことは2つあります。

まず「観光」の本質を追求し、理解する大切です。観光を支えるのは観光地で働く人、地元の住民です。観光客と支える人、双方が観光を楽しみたい、守りたいと思えるために、観光地の魅力や持続可能性を、自分なりに考えてみる必要があると感じました。

そしてオンラインツアーならではのやりがいです。いつでもどこからでも気軽に参加ができる、新しく斬新な観光商品を提案しやすいというオンラインの強みがあります。さらに、ガイドと参加者の交流が、より観光（ツアー）を楽しめる一因となっていました。一方で、五感全てでは観光を味わえない、通信環境のトラブルなどの弱みもあります。今後、with コロナの中で従来の観光の楽しみ方に加え、オンラインツアーもが主流になるよう、双方を活性化させるべきだと強く感じました。

ツアー当日、参加者の方の楽しむ姿を拝見し、何度も何度も振り返っては改善を加え、一つのツアーを完成させたことに大いに達成感と幸福感のある経験となりました。



### 編集後記

観光地・京都を舞台に、ターゲットである外国人に何をどう伝えるか、観光業の課題を解決できているのか、学生らしく新しい形のオンラインツアーであるのか。これらを全て満たすツアー作りに悪戦苦闘しました。ですが、参加者の方々が真剣に、興味深く、笑顔でツアーに参加している姿を拝見し、とてもやりがいを感じられました。ゼロから作るオンラインツアーは、達成感でいっぱいでした！最後になりましたが、有意義で貴重な機会を提供していただいた科目担当者の藤本さん、伊達先生、また常に学びと挑戦をサポートしていただいた堤さん、SAの田中さん、そしてゲストスピーカーの赤松さん、その他全ての関係者の皆様へ心より御礼申し上げます。

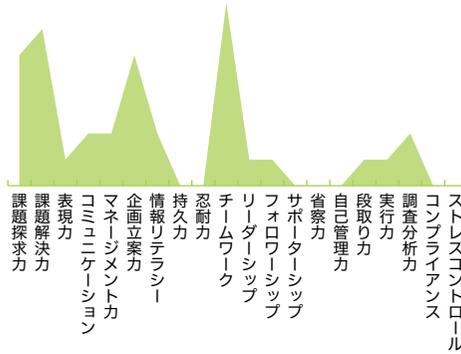
### プロジェクトメンバー

渡辺 真理子(神3) 佐伯 梨花子(社会4) 橋本 みさと(法2) 堀本 彩夏(商3) 西尾 和佳奈(商2)  
菅原 優水(商2) 岡本 美咲(政策2) 小池 明日菜(グローバル地域文化3) 土橋 彩子(グローバル地域文化3)  
伊藤 菜那(グローバル地域文化2)

## プロジェクト活動 アンケート集計結果

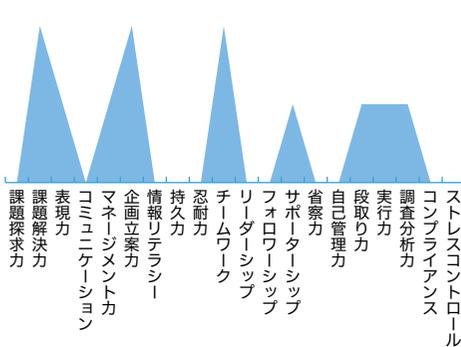
### 授業開始時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

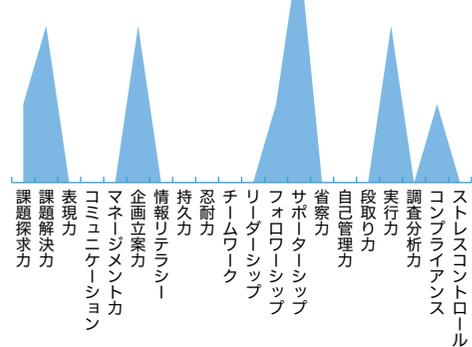


### 春学期終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい

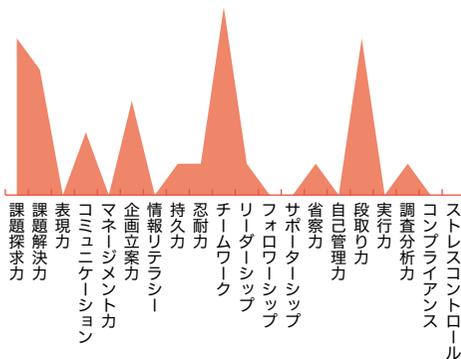


Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい



### 授業終了時

Q1 チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んで下さい



Q2 プロジェクト活動を通して実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んで下さい

